１人１台端末の活用による実践事例

（小・中学校）

学校名	倉敷天城中学校	実践者名	後藤　憂月
教科等	数学	学年	第２学年
		端末活用段階（岡山県版）	Stage３
育成したい資質・能力	多面的・多角的に考える能力 目的にそって情報収集を行い、分かりやすく伝えることができる力。		
単元・内容等	「データの活用」 学習内容を使って、データを分析し発表する。		
児童生徒の実態（端末活用頻度等）	数学に限らず、様々な授業の中で日常的に活用している。課題のやりとり、スライドの作成、情報の共有（ジャムボード）等		

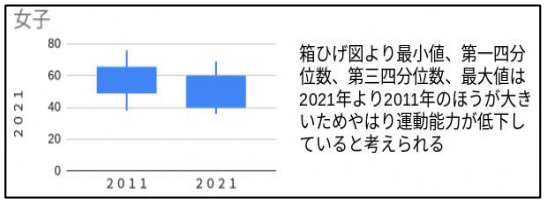
活用の概要（使用アプリ名を含む）

(1)学習の見通しをもつ。
・「雪だるまのベストバランス」についてアンケートした結果をヒストグラムを使って個人でまとめて、それを Chromebook で写真に撮りそれを全体で共有する。
・「ヒストグラム以外の方法を使ってデータをまとめて発表しよう。」と伝え、学習の見通しをもたせる。

(2)最適なデータにまとめる。
・「10 年前と現在の天城中２年生の新体力テストの得点を比較して言えること」と題してデータを与え、各々が最適と考えた方法で分析し、結果をスライドにまとめる。

(3)グループごとにスライドを作成する。

(4)発表する。



実践者の手ごたえ	児童生徒の振り返りや反応等
生徒自身で主体的に学習を進めることができ、スライドの発表では、教師が想定した以上のまとめ方ができていた。本校が３年生で実施している課題研究の予行演習のような形の発表会になり、３年生になるに向けて大きなはずみになった。	（生徒の振り返り） 「男女別で結果を考察する人や、男女全体で結果を考察する人がいて、発表する人によって考察の仕方に違いがあって面白かった。」 「使う資料が人それぞれで、階級値が違うなどで同じ資料がなくてすごいと思った。」 「データの活用で学んだ内容を利用して、スプレッドシートでグラフを作り、考察することができた。見やすいグラフを作るのは少し難しかったが、値を変えたりすることで見やすくできたと思う。」